

市民病院だより

地域と共に考える医療



四階南病棟棟長 **大島 由香**

理学療法士 **吉田 和弥**

入院から在宅復帰を目指して

回復期リハビリテーション病棟がある病院

はじめまして。市民病院四階南病棟棟長の大島由香と理学療法士の吉田和弥です。今回のコラムは当院の回復期リハビリテーション病棟について紹介します。

※急性期病院で治療を受けて、発症から1〜2カ月後の状態（病状が安定するといわれている時期）を回復期といいます。この時期に集中的なリハビリテーションを行うことで、低下した能力を再び獲得していきま

す。そのお手伝いをする病棟を回復期リハビリテーション病棟といいます。入院された方が一日も早く快適な日常生活を送ることができるよう、医師、看護師、薬剤師、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）、栄養士、介護福祉士、看護補



助者、ソーシャルワーカーといった、各分野のスペシャリストたちがチームとなつていきます。

脳血管疾患や骨折などの機能回復や、日常動作の改善・向上を目指し、在宅・社会復帰を目標に社会資源の利用や生活環境の整備のサポートを行います。

回復期リハビリテーションを受けるには、入院していることが前提で、他院から転院される場合は診療情報提供書が必要です。

また、厚生労働省が疾患などの条件や入院期間を定めており、対象疾患ごとに決められた期間での転院と入院期間が定められているため、まずは主治医にご相談ください。

※急性疾患や重症患者の治療を24時間体制で行う病院

市民病院 TEL 22-5211

時代をつむぐ男と女

148

問 暮らし人権課 水野 TEL 22-1128

新年度が始まって1カ月が経ち、新しい環境には慣れてきた頃でしょうか。そこには4月に入社した新入社員、それを迎えた先輩社員など、迎える側、迎えられる側が存在します。

会社、団体などの組織には、さまざまな人がいて、一人一人得意不得意があるなど、個性や能力は異なります。新人、先輩、同僚とそれぞれ立場が異なる中で、皆さんの職場は働きやすい環境ですか。

今回は、パワーハラスメント（パワハラ）に関するお話です。パワハラは、同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて精神的・身体的苦痛を与える、または職場環境を悪化させる行為をいいます。一般的に上司から部下へのいじめ・嫌がらせに対して使われることが多いですが、部下から上司に対して行われることもあります。

ミスしたときに「いること自体が会社の損害だ」、

「お前は掃除だけやってくれればいい」などと言われたり、今まで参加していた会議から外されたりしたらどうでしょうか。日頃の言動の中で、実は相手を傷つけてしまっていないかを注意することが大切です。もし、パワハラを受けて悩んでいる人がいれば、会社の人事を担当する部署に申し出るか、多治見総合労働相談コーナー（TEL22-6381）に相談してみてください。

平成30年3月に第3次たじみ男女共同参画プラン策定しました。

